

月磨画
名
四山作

御
記
利
生



文化八年
青陽
新板

13
2378
310

版治森



文化八年の奉養英法月

仇討雑序談 全三冊

口上 月 磨

昔のいざやう中よりゆめをふむけはてはひろくやとま
 中二道子孫おまひらるの現言亭墨墨山と申すの
 多佃法なる作者ふごごり申すのがめり合巻
 作はうさしおゆらん入らん 何れも梅のつきさひ
 きのねをひきてひきつらんあつてくもさくまは旅の
 ぬまぬまより右若狭さしおひらん入らん申す
 あつてはひひのひきさつての箱を帯ひてまる
 口上 墨墨山
 今月の中と奉り申すゆめふむけはてはひろくやとま
 ぬらん入らん申すゆめふむけはてはひろくやとま
 ぬらん申すゆめふむけはてはひろくやとま
 さしおひらん入らん申すゆめふむけはてはひろくやとま
 ぬらん申すゆめふむけはてはひろくやとま
 さしおひらん入らん申すゆめふむけはてはひろくやとま
 ぬらん申すゆめふむけはてはひろくやとま



三磨磨

2378
3/10

上之巻

大江之忠臣足程神谷

宗太 郎

春もや

けき 綱

月と梅

楠木左馬之助正明



Handwritten text in a cursive script, likely a translation of a religious or philosophical text, located on the right page of the manuscript.



Handwritten text in a cursive script, likely a translation of a religious or philosophical text, located on the left page of the manuscript.





つるおあ一月
つるおあ一月
つるおあ一月
つるおあ一月
つるおあ一月

つるおあ一月
つるおあ一月
つるおあ一月
つるおあ一月
つるおあ一月



つるおあ一月
つるおあ一月
つるおあ一月
つるおあ一月
つるおあ一月

つるおあ一月
つるおあ一月
つるおあ一月
つるおあ一月
つるおあ一月



文化八年未春月
新版

月曆畫

墨山作

山東京傳作

硯亭墨山作

